

## 研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB	廃棄物適正管理とウェイトピッカーの共存へー固形燃料製造プロジェクトによる実験				
研究テーマ (欧文) AZ	Towards the coexistence of appropriate waste management and livelihoods of waste pickers: An experiment of paper briquettes production				
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓)ホリタ	名)マサヒデ	研究期間 B	2013 ~ 2015 年
	漢字 CB	堀田	昌英	報告年度 YR	2015 年
	ローマ字 CZ	Horita	Masahide	研究機関名	東京大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授				
概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)					
<p>多くの途上国で野積み処分場による廃棄物管理がなされている。しかし、これには環境汚染を伴うため、埋立処分への移行が検討されている。他方、野積み処分場ではウェイトピッカーと呼ばれる人々が生活している。ここに廃棄物適正管理と彼らの生活の衝突が生じる。本研究の目的は、フィールド実験を通じてウェイトピッカーの転職を促進する方法を検討し、賃金支払い体系を変えることが転職の意思決定に及ぼす効果を評価することである。さらに、これらを通じてウェイトピッカーの選好・行動を理解することが目的である。</p> <p>フィリピン・イロイロ市の野積み処分場を研究対象地とした。2013 年 11 月に、ここで有価物の回収をする 112 人のウェイトピッカーを対象に、代替的な職としての固形燃料製造の仕事を提示した。この際、賃金水準の決定方法と賃金の支払い頻度において異なる 4 種類の募集書類を作成した。そして、各ウェイトピッカーに対して、4 種類のうち無作為に選ばれた 1 種類のみ募集書類を配布した。その後、ウェイトピッカーがこの求人に応募し、転職するかどうかを観察した。また、転職後の固形燃料製造を 3 週間に渡って観察した。</p> <p>実験の結果、以下のことが明らかとなった。賃金水準が不確実な出来高制でも転職者を集めることが可能だが、配布者数に占める転職者の割合は最高で 27%に過ぎなかった。毎日支払いのある契約よりも三日に一度という頻度の低い支払いが好まれた。これは日々の消費への誘惑を制限することで貯蓄したいという選好が現れた結果と考えられる。固形燃料製造量を比較した結果、出来高制の労働者が固定給制の約 2 倍の量を製造した。この差はモラルハザードと考えられる。</p> <p>以上を通じて、ウェイトピッカーの転職を促進する際に考慮にいれるべき点が明らかとなった。これらの研究成果を The 5th World Congress of Environmental and Resource Economists や環境経済・政策学会 2014 年大会などで発表した。</p>					
キーワード FA	ウェイトピッカー	廃棄物管理	フィールド実験	フィリピン	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	

欧文概要 EZ

Waste pickers at a dumpsite in the Philippines were offered alternative jobs using four different letters of offer. These letters differed in the scheme of payment and in the frequency of payment. The 112 waste pickers each randomly received one of the four offers, and we observed the number of those who accepted the offer. Those who were offered payment once every three days were significantly more likely to accept the job compared to those who were offered daily payment. We suggest that these results are evidence of self-control using a job change by the waste pickers.